

既存農業用ため池の多面的機能を利用したため池再整備方針の策定

目的

農業用ため池は全国で20万を超える数があると言われ、古来から我が国の水田農業の水源の1つとして重要な役割を果たしている。

一方で近年においては、農村地域の市街地化、混住化の進行により農地転用が行われ、ため池受益農地面積の減少が進み、全く受益農地を持たないため池も生じている。

このような状況を踏まえ、ため池の多面的機能を利用し、市街地化、混住化の中で求められるため池の有効利用整備方針の策定を行うものである。

ため池の機能としては、本来の農業用水水源確保の他、下記のようなものが考えられる。

1. ため池の空き容量を利用して、洪水調節機能を付与する。
2. ため池及びその周辺に利活用保全施設を整備し、親水施設等として利用したり、地域住民の憩いの場とする。
3. 貯水を防火用水として利用する。
4. 池内を釣り場として、地域住民に提供する。

上記機能と、個々のため池の立地条件、施設機能の診断、周辺地域状況を把握し地区内ため池の今後の整備方向を策定し、整備順位を検討する。

内容

① ため池の位置付け

地域内既存ため池を、その規模、立地条件、現在の利用状況等から4タイプに分類する。

- I. 農業地域にあり農業用ため池として継続利用する。
- II. 農業地域にあるが規模が小さく、老朽化も進行しており廃止方向とする。
- III. 市街化地域にあるが、下流には受益農地を有し用水を補給している。
- IV. 市街化地域にあり、受益農地も消滅している。

② 施設機能診断及び整備方針策定

上記位置付けIVのため池について、多面的機能を利用した今後の整備方針を立案する。

また、ため池施設の現状機能を現地調査等により診断し、施設の安全性、ため池決壊の場合の被害想定、再整備実施による経済効果、地域活性化等を勘案に整備順位を決定する。

技術ポイント

(1) ため池施設機能診断

ため池堤体、余水吐等施設の現地調査を基に、現行基準等による整合及び老朽化程度を把握し、その安全性をチェックする。

- ・ 堤体法面崩壊等による断面不足、洪水流量に対する余裕高不足等が多く見られます。
- ・ 堤体下流面における浸透水の流出、漏水が見られる場合があります。
- ・ 余水吐流入部断面が小さく、所定の洪水を十分流下させることが出来ない施設が多々あります。
- ・ 取水施設の老化等により、漏水を生じている場合があります。



ため池の現地調査状況

(2) ため池決壊の場合の想定被害

決壊による貯水および土砂の流下範囲を想定し、その中にある住宅、公共施設、農地等の被害額を算定します。

(3) 整備方針の策定

ため池の容量、集水面積、下流河川の整備状況、ため池周辺及び下流区域の土地利用状況、地元住民の意向等を踏まえ、今後の整備方針を策定します。

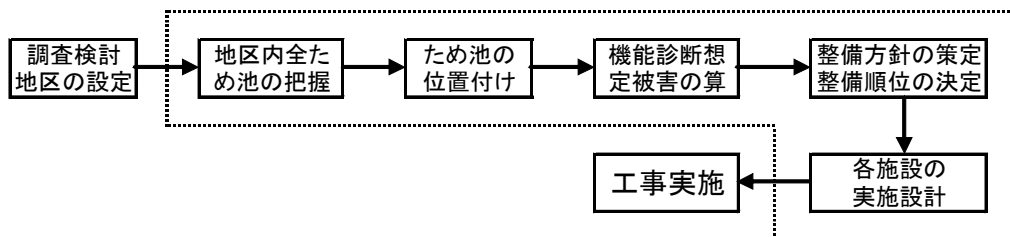
- 例 1. 洪水調整池として常時水位を下げ利用する。
- 例 2. 利活用施設を整備し、地域住民の憩い場として利用する。

(4) 整備順位の決定

ため池の診断に基づき危険度、想定被害、整備効果等の大小を総合的に勘案し、整備順位を決定します。

事業の流れ〔当社の実施範囲〕

本件における当社の実施範囲は下図の点線範囲内となります。



当社実績

H14 年度「洪水調整容量調査設計委託業務」大府市

玉野総合コンサルタント株式会社

お問い合わせ先： 事業企画部 (TEL. 052-979-3960 / FAX. 052-979-3970)